

# 外国人介護士受け入れ担当者の悩みと外国人介護士が望む地域交流の形

橋本財団ソシエタス総合研究所 研究員

坂入 悦子

## 発表の概要

1. 調査の背景
2. 調査「岡山県における外国人介護士と彼らを取り巻く人々の地域社会における経験と課題を探る」の概要と意義
3. 外国人介護士受け入れ担当者の悩み
4. 外国人介護士が望む地域交流の形

### 1. 調査の背景

- 地方において外国人介護士の受け入れの問題を考える際には、地域・介護施設・介護従事者間という3つの場面での課題を明らかにし、それらの課題の解決に向けての実践が必要となるが、地域という場面において外国人労働者はまだ見えにくい存在である。
- 外国人労働者の受け入れ拡大をめぐる議論があっても、そこには外国人労働者が日本の地域や職場でどのような課題を抱えているのかという外国人労働者当事者の視点が抜けていること、また外国人労働者の受け入れ施設と地域社会の社会資源との連携の少なさも問題である。

### 2. 調査の概要

調査「岡山県における外国人介護士と彼らを取り巻く人々の地域社会における経験と課題を探る」

- 外国人介護士が岡山県に住まう経験と、その経験が日本の社会規範や期待からどのような影響を受けているのかを知ることが目的を行った。
- 岡山県で最初の外国人介護士、外国人介護士受け入れ担当者、地域住民などにインタビューやアンケートを通して詳細な意見を聞いた質的研究である。
- 2023年12月より2024年5月をデータ収集期間とし、以下の協力を得た。
  - (1) 18名の外国人介護士（技能実習生5名、EPA5名、特定技能3名、在留資格「介護」4名 留学生1名）
  - (2) 外国人介護士受け入れ担当者 11名
  - (3) 地域住民 19名（6名はインタビュー、13名はアンケート）
  - (4) 施設 10施設

### 3. 外国人介護士受け入れ担当者の悩み

調査から見てきた外国人介護士受け入れ担当者が抱えている悩みを以下に挙げる。

- **地域とのかかわりに関するもの**
  - (1) ゴミの分別の問題
  - (2) 回覧板
  - (3) 町内会
  - (4) 不動産
    - A) 保証人
    - B) 騒音
    - C) 退去時の清掃
    - D) 匂い
    - E) 共有スペースの使い方
    - F) ゴミの捨て方
    - G) 集団で部屋に集まる
- **日本の生活習慣の指導に関するもの**
  - (1) 交通ルールがわからない
  - (2) 自転車の乗り方がわからない
  - (3) 公共交通機関の使い方がわからない
  - (4) 防犯への意識が低い
    - A) 部屋や自転車に鍵をしない
    - B) カーテンを閉めず、下着を外に干したまま
    - C) 自分たちが住む予定の場所で写真を撮って SNS にアップしてしまう
  - (5) 銀行でのトラブル
  - (6) 買い物の仕方や場所がわからない
  - (7) 公共の敷地の果物や魚をとる
- **食生活の違い**
- **日本の制度の不具合**
  - (1) 車の購入時の保証人
  - (2) 脱退一時金
- **日本の職場環境の理解**
  - (1) 仕事と勉強の両立の大変さ
  - (2) 休みや仕事への考え方の違い
- **現場と上層部との考え方の乖離**
  - (1) 上層部と現場との間に挟まれる
  - (2) 上層部と現場で同じ方向を向いていない

- **地域からの偏見、差別**

- (1) 喫煙への苦情
- (2) 差別
- (3) 外国人が集団でいられることへの恐怖

- 外国人介護士達は、日本の文化や規範に合わせる事を期待されているだけでなく、制度などの構造的な面による不利益を経験していた。
- 外国人介護士受け入れ担当者は、上層部と現場の間、外国人介護士と日本人介護者の間、地域社会と外国人介護士の間立ち、調整する重要な役割を担っていた。
- 外国人介護士が経験する偏見や差別、保証人の問題などの制度的な不利益は、外国人介護士受け入れ担当者にも影響を与え、受け入れを難しくしていた。
- 外国人介護士の経験は地域や職場の人々によっても左右されることから、その関係を調整、促進する立場にある外国人介護士受け入れ担当者への配慮が必要。
- 外国人介護士とどのように共存するのか、彼らが経験している構造的な不利益をどう解消していくのかは外国人介護士受け入れ担当者だけでなく、関係者全員で取り組む必要のある課題である。

#### 4. 外国人介護士が望む地域交流の形

- 主に特定技能の外国人介護士が対象ではあるが、登録支援機関は出入国管理庁より外国人と日本人との交流の促進に係る支援を行うよう求められている。しかし、そこには外国人介護士当事者や、外国人受け入れ担当者、地域住民がどのような形での交流を望んでいるのかという視点が抜けている。
- 外国人介護士が望む地域交流の形としては(1)祭り(2)地域社会のボランティア活動(3)日本人との交流(4)スポーツやアウトドア(5)飲んだり食べたりしながら話す機会(6)料理を作る(7)避難訓練(8)自国の文化を披露する機会 等が挙げられていた。
- それぞれがどのような地域交流を望むのかを聞き、公民館やNPOなど交流資源を持つ場所との連携や互いの文化を学ぶ機会を持つことで偏見を減らし共存への道を探る事が可能になる。